

「正則関数」(共立出版)(初版第1刷) 正誤表

下記の誤りをお詫びして訂正いたします。

最終更新日 2019年8月4日

場所	訂正前	訂正後	訂正日
p.9, ↓4, p.171, ↑3	$+\beta z$	$+\beta \bar{z}$	19/05/30
p.21, ↑2	$E \subset \Delta(0, R')$	$E \subset \Delta(c, R')$	19/03/19
p.29, ↑4	$= \frac{f(z+k_n)-f(k)}{k_n} = \frac{\bar{k}_n}{k_n} =$	$= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{f(z+k_n)-f(z)}{k_n} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\bar{k}_n}{k_n} =$	19/03/18,14
p.30, ↑1,2	h	ih	19/03/01
p.39, ↑5,4	(1),(2),(3)	(i), (ii), (iii)	19/03/18
p.51, ↑2,1	原点	点 $-\frac{d}{c}$	19/03/18
p.67, ↓6	$\varphi'(s) \neq 0$	$\varphi'(s) > 0$	19/04/02
p.76, ↑1	u, v に	v, u に	19/03/18
p.81, ↑7	複素積分記号	積分記号	19/03/18
p.84, ↓10	$k!F_k(z)$	$k!F_{k+1}(z)$	19/04/02
p.105, ↓5	z_0	z	18/12/19
p.107, ↑2	右辺の収束について	右辺の絶対収束・一様収束について	19/08/04
p.112, ↑4	l	$l-1$	19/06/06
p.127, ↓3,6,7,8,13	集積点	触点	18/12/19,3/20
p.131, ↓8	証明の最初に文章追加：本証明では折れ線は Ω 内のもののみ考える。		19/02/03
p.139, ↑5	ン曲線	ン曲線(自分自身と交わらない曲線)	18/12/19
p.150, ↓4	領域は正則	領域は双正則	19/02/27
p.161↑4,3,p.162↓1	u, v を $P, -Q$ に置き換える。		19/05/30
p.166, ↓4	$c' \in D(c_1, \varepsilon)$	c_1 から c' までの曲線の長さが $\frac{\varepsilon}{2}$ 以下	18/12/23
p.178, ↓2	[15]	[16]	19/02/03

読者の方からのご連絡に基づき修正した箇所もあります。この場を借りて感謝いたします。